

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽科】

1. 対象（実施を想定する学校・子供の実態の概要）

5年生の子どもたちは歌うことが好きで、どの子ものびのびと歌っている。歌唱教材においては、歌詞の内容や強弱記号、旋律の高低などから曲の山をとらえ、それを表現するためにグループで声の大きさや音色、発音の仕方などを工夫して歌おうという思いをもって学習を進めてきた。一人では思いを表現できない子どももいるが、友達と活動することで曲の特徴に合う表現の仕方に気付いたり、声が重なることの楽しさや喜びを感じたりしながら学習に取り組んでいる。

2. 単元（題材）名 「曲想の変化を感じ取ろう」（全5時間）

3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・曲想と音色、リズム、旋律、強弱や歌詞の内容などとの関わりを理解し、曲想の変化を感じながら、全体の響きを聴いて音を合わせて歌ったり演奏したりしている。 ・呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌っている。
思考力、判断力、表現力等	・曲想と歌詞の内容や音色、リズム、旋律や音の重なりなどとの関わりを感じ取り、曲の特徴にふさわしい歌い方や演奏の仕方について、どのように表現したいか思いや意図を持っている。
学びに向かう力、人間性等	・曲想の変化を感じ取り、曲の特徴にふさわしい表現を工夫したり、友達と協働して歌ったり合奏したりする学習に主体的に取り組もうとする。

4. 本時の目標 教材名「夢の世界を」（1／5）

楽譜を見ながら範唱を聴き、前半と後半では歌詞の内容や強弱、音の高低、リズムが違うことを感じ取り、歌詞のイメージに合った歌い方を考えることを通して、曲が盛り上がる後半は、未来に向かって進もうという歌詞のイメージに合わせて、音の高低を生かして高い部分を大きく響きのある声や力強い声で歌おうという思いをもつ。（思・判・表）

5. 授業展開【**本時**・単元（題材）】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
（教材：「夢の世界を」歌唱） 後半部分を、歌詞のイメージに合うように歌い方を考えて、グループで歌ってみよう。

考えるための材料			
考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
「夢の世界を」の楽譜	「夢の世界を」の範唱	他のグループが感じ取った曲想、歌い方	「夢の世界を」の主旋律入り伴奏
想定される活動			
強弱や旋律の高低、歌詞の内容を読み取る。	声の感じ(音色)や伴奏、リズムを聴き取る。	自分たちのグループと比較し、良いところや新たな視点等を参考にする。	旋律の確認やグループで考えた表現方法で実際に歌ってみる。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

### 【対話と思考①】

考えるための材料Aと考えるための材料Bを使って、強弱や旋律の高低など気づいたことを個人で楽譜に書き込む。

「前半と後半で曲の感じがちがったよ。」

「前半の歌詞は思い出している感じだったけど、後半は未来に向かっていく感じがする。」

「後半は、前半に比べて高い音が多いね。」

「前半はmfだけど、後半はfだから強くなるのかな。」

### 【対話と思考②】

①で書き込んだことを元に、考えるための材料Bを使って旋律などを確認しながら、後半部分の歌い方についてグループで考える。

「後半の最初にfがあるから大きく歌いたいな。」

「でも、『さあ』だから呼びかける感じでもいいね。」

「『みちをかけぬけ』は音が高くなっていっているから、だんだん大きくしようよ。」

「最後の『せかいを』はmfなんだね。少し小さくしようか。」

### 【対話と思考③】

グループごとに書き込んだ楽譜（考えるための材料C）を見ながら歌い方を紹介することで、お互いの歌い方を比べたり、共有したりする。

「わたしたちが考えた歌い方と似ているよ。」

「fは大きくとっていたけど、強くという表現のほうがいいかもしれない。」

### 【対話と思考④】

考えるための材料Cを使って、自分たちで考えた歌い方で実際に歌ってみる。

「やっぱり後半に入る前は、だんだん大きくした方が曲も盛り上がっていくよ。」

「後半の最初は、しっかり伸ばさないとつながらないね。」「最後の『夢の世界を』は未来への気持ちがたくさん詰まっている感じがするから丁寧に歌いたいな。」

### 【まとめ】

グループで考えた歌い方を生かして、クラス全体で歌ってみる。後半の二部合唱へつなげる。

## 学習の成果（予想される子供のあらわれ）

- ・「後半は、前半と違って未来に向かっていく感じだから力強く大きく歌うといい。」
- ・「旋律の音が上がっていく部分を大きく歌っていくと、盛り上がっていくように歌えると思う。」
- ・「前半は強弱記号もmfだから、強くなりすぎずに語りかける感じで歌えばいいと思う。」
- ・「強弱記号や旋律の音の高さを意識した歌い方をすると、曲の感じに合う歌い方ができる。」